

第5回

建設業IT説明会

生産高度化が焦点に

全国5会場で行われた国土交通省主催の「建設業IT説明会」が開催された。約600名の中小・中堅建設業者が参加した各会場では、電子商取引の業界標準規格や現場の生産高度化などについて報告された。

全産業の中でも高い利益を誇っていた建設業だが、社会・経済環境の変化を受けて厳しい現実が迫ってきた。建設投資はピーク時の6割といわれ淘汰・再編は避けられない。

国土交通省では、このような現状を踏まえ、建設業の生産高度化・合理化を目的に、ITの有効活用を促進しており、電子商取引の標準規格を活用した実証実験、また有識者に

よるITを活用した合理化の方向性についての検討などを推進してきた。

この取り組みの成果を紹介し、中小・中堅建設業者の経営革新を促進すべく、2004年11月から12月にかけて、全国5箇所で行われた「建設業IT説明会」を開催した。総参加人数は600名近くに上った。

説明会では、これまでの取り組みや実証実験結果の具体的な報告・提示に加え、経済産業省からもIT活用支援策に関する説明がなされた。ここでは、2004年11月26日に愛知県産業貿易館で開催された名古屋会場の様子を紹介する。

企業間コミュニケーションと数値に基づく経営がカギ

名古屋会場では、113名が参加

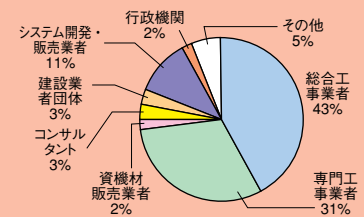
＜開催概要＞

- ・主催：国土交通省
- ・事務局：財団法人建設業振興基金
- ・開催地：福岡、大阪、名古屋、札幌、高松

＜建設業IT説明会 プログラム＞

1. 「建設業の現状と今後の施策の方向性について～中小・中堅建設業におけるITの活用～」
国土交通省総合政策局建設業課
2. 「建設業の生産高度化のための実証実験結果について（概要編）」
（財）建設業振興基金
3. 「建設業の生産高度化のための実証実験結果について（事例編）」
（財）建設経済研究所
4. 「ITを活用した現場の生産高度化について～「e施工管理」のすすめ～」
（財）建設経済研究所
5. 「ITを活用したコスト管理の合理化について～「経営コックピット」の構築を目指して～」
（財）建設経済研究所
6. 「中小・中堅企業のIT投資支援策について」
経済産業省商務情報政策局情報処理振興課

建設業IT説明会 来場者内訳（全会場平均）



進められているが、これらを用いた生産高度化の実証実験について建設業振興基金調査役の帆足弘治氏、コンストラクション・イーシー・ドットCOMの櫻井暁悟部長が概要と事例をそれぞれ報告した。

また、続く講演ではITを活用した経営改革推進に関し建設経済研究所の山根一男常務理事が「ITを導入しても活用できていない企業がまだまだ多い。ネットワーク技術を使って現場の企業連携を進める一方、徹底したコスト管理および数値に基づいた経営が求められる」と強調。後者の考え方は「経営コックピット」の概念として提起された。

業界特性に立脚したIT化の方向性から導入支援まで、総合的なIT活用情報が提示される説明会となった。



▲建設業IT説明会 名古屋会場（2004年11月26日）の風景



▲財団法人建設業振興基金からは、CI-NET、C-CADECなど建設業の生産高度化のための実証実験についての報告が示された。写真は建設業振興基金・建設業情報化推進センター調査役帆足弘治氏

総合工事業者を中心に、100名を超える参加者が耳を傾けた